

従業員7人のベンチャー企業が、日本のトップ企業とタッグを組んで水素社会の実現を目指す。「アルミ水素」の実用化に向け、トヨタ自動車と実証実験を始めたアルハイテック（高岡市オフィスパーク）。水木伸明社長は「研究開始から15年。ようやく大きな一歩を踏み出せる。富山の技術でエネルギー革命を起したい」と意欲を燃やす。

【本記一画】

廃アルミから水素生む装置開発

「どのような経緯でトヨタと実証実験を始めることになったのか。」

「昨年の春、トヨタからアルミ水素に関心がある。一度話を聞かせてほしい」と電話があった。相手は世界企業。にわかに信じられなかったが、彼らは本気だった。後日、8人がやってきた。小型装置で水素を発生させる様子を披露すると、興味深く見てくれた。それから互いに行き来するようになり、トヨタの工場から出るアルミくずで基礎的な試験を重ねた。純度の高い水素が得られるなど良いデータが集まり、工場への装置の導入を本格的に目指すことになった。」

「アルミ水素の研究を始めて15年になる。」「トナミ運輸で環境事業を担当していた関係で、アルミ付き紙パックを有効利用する方法を探り始めたのが2006年。座学だけで研究を進め、

アルハイテック(高岡) 水木伸明社長 エネルギー革命起こす



「アルミ水素で富山からエネルギー革命を起したい」と語る水木社長

アルミだけを取り出して水素を効率良く発生させる技術を確認した。発想にも技術力にも自信はあったが、資金やマシンの不足から実用化への道は険しかった。なかなかの目を見ず、「いつまで研究しているのか」とお叱りを受けることもあった。トヨタがパートナーになったことで技術レベルが格段に上がるだけ

（聞き手 浜田泰輔）

でなく、アルミ水素の認知度も高まり、普及が早まることを期待している。」

「今後の展望は。」

「トヨタの工場で実用化されるのが第一だ。トヨタは燃料電池トラックで自動車部品やコンビニの商品を配送するプロジェクトも進めている。将来はそうした取り組みにもアルミ水素が採用されるようにしたい。他のアルミ関連メーカーや、非常用電源として自治体への売り込みにも力を入れたい。事業基盤の強化に向けて増資や人員の拡大も計画しており、その意味でもトヨタとの実証実験を成功させなければならない。」